

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400226		
法人名	有限会社 すこやかさん		
事業所名	グループホームすこやかさん		
所在地	香取市与倉869-1		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	平成27年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成26年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームすこやかさんはデイサービスが併設されている為、少人数では開催が難しい運動会や納涼祭を合同で実施して交流を図っている。又、ボランティアや慰問の方々が多く来所しており、イベント時には一緒に参加され楽しまれている。常勤の栄養士が食事の相談に応じている。
グループホームの看護師に加え、併設のデイサービスにも常勤看護師が数名いる為、緊急時には状態に応じて相談や助言を得て早めに適切な対応ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは開設12年を迎えたが、職員の入れ替わりも少なく家庭的な雰囲気での運営がなされている。各種の加算を取得し、職員の質の確保、処遇改善にも配慮つつ、医療とも連携して専門性の高い介護を提供している。幼稚園・小・中・高校生の慰問や体験、ボランティアの来訪等地域との交流も多く、職員の細やかな対応は利用者や家族を和ませている。代表者は高齢者を支える施設の在り方について、常に利用者の視点に立って研究・摸索し、先見性を持った取組みを行っている。近年同一敷地内に緊急のショートステイも受入れ可能な、サ高住と宅老所を組み合わせた施設を建設し、利用者には感謝されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの特徴を生かし、毎月の会議や日々の申し送りの際の、理念を実現するための支援について話し合い共有認識を確認し努力している。	「一人ひとりの個性や家族の気持ちを大切に地域に根差したサービスを提供する」旨の理念を掲げている。年度毎に「処遇計画」として目標や課題を明示し、職員や家族とも共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内外の幼稚園・小・中・高校生との交流や慰問等ボランティアの方々の訪問が数多くある。	所属自治会のみならず、近隣の自治会からも運営推進会議に参加が得られるなど、幅広く連携が図られている。また、毎週複数のボランティアの来訪を受け馴染みの関係が出来ている。幼稚園や小・中・高校生との交流も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を開催したり、小・中学校の職場体験学習や高校生のボランティアの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果は運営推進会議や家族へも報告し、話し合いによる意見をサービスの質の向上に活かすよう努めている。	利用者・家族・高齢者支援課・地域包括・近隣自治会代表等、毎回参加者を変えて、年3回実施している。議題はホームの運営全般にわたり中身の濃い内容で、分かり易く資料にまとめ、ホームへの理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催のグループホーム連絡会や研修に積極的に出席している。 市の高齢者福祉課とは運営推進会議の出席を含め、常に良い協力関係作りを努めている。	グループホーム連絡会、ケアマネ連絡会、医療と介護の交流会等、市の職員が参加する会議に積極的に参加し交流を深めている。高齢者福祉課や地域包括職員とも都度連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束禁止について勉強会や研修にて理解している。 日中は玄関やテラスの施錠はせず、身体拘束はしていない。	身体拘束禁止について職員は県の研修やホーム内の研修で理解を深めている。利用者を不穩にさせないケアに努め、玄関やテラスの施錠も一切行わず、職員の気配り、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については勉強会や研修にて学んでいる。 入居者の心身の状態には十分注意を払い、申し送りにより把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症研修会等に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。以前、成年後見制度を利用されている方もいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居者や家族に施設内を見学していただき、話し合いの場を設け不安や疑問に対して十分な説明を行い理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族が意見・要望を言いやすい関係作りに努めている。 それらの意見は会議にて検討し改善に努めている。	職員の離職は少なく、家庭的なサービスを提供している。アンケートにも全家族から回答を得ており、「訪ねやすい・話を聞いてくれる・柔軟な対応・ホームのサービスに満足」との回答が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に職員が意見や提案をできる機会を設けている。会議には代表者・管理者も出席しており、十分な話し合いを行っている。	毎月夜の時間帯に全体会議及びユニットごとの会議を持ち、代表者も参加して風通しの良い運営を行っている。職員ヒアリングからも、職員が積極的に係わり、生き生きと働いている様子が窺えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者とは、毎月の会議にて話し合いがもたれ、改善点があればその都度検討している。 介護職員処遇改善交付金も最初から申請し支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修等へ積極的に参加し、会議にて内容の共有にも努めている。 レベルアップの為、国家資格試験の受験を奨励している。内外の研修に対しては研修費が支給されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入しており、ケアマネネットワーク会議に出席したり、定期的同業者との勉強会等へ参加している。 情報交換し質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の不安を取り除く配慮をしながら十分に話し合いをし、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や困っていること、要望等を伺い、十分に話し合いをして信頼関係作りに努めている。併設のデイサービスからの入居が多く、なじみの関係が作られており、不安感が少ない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を伺い、職員間で十分検討した後、選択の機会を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の人権を尊重しながら支援し、家事仕事等生活のなかでの共同作業を通して信頼関係を築いている。職員の学びにもつながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年家族会を兼ねた遠足を企画し、多数の家族が参加されている。入居者・家族・職員三者の関係作りに努め、質の良い支援につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が大切にされていた知人も気軽に来所されている。併設のデイサービスにも知人が利用されており、自由に交流が持たれている。	利用者にとってここが馴染の場所になっており、家族、知人の来訪も多く、来訪時には我が家のようにもてなし喜ばれている。併設のデイサービス利用の知人との交流もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のより良い関係作りができるよう席の配置に考慮している。お互いの立場を尊重し、職員が間に入りさりげなく援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者との契約が終了しても、その後の関係を断ち切らない付き合いができるように、入院・退居後もお見舞いや訪問をしている。家族の相談にも十分に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活にあった暮らし方ができるように配慮している。本人の希望や意向は会話や表情からも把握に努め、日々の申し送りや会議にて検討して支援に活かしている。	今までの生活歴や暮らし方を尊重し、本人・家族からも意向や要望を聞いている。入所間もない方には職員が寄り添って、不安のないよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の人権を尊重しながら、今までの生活歴や生活環境に配慮している。昔からの趣味である編み物、園芸等も取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活リズムを考慮しながら、現状の生活状況を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や連絡の際に本人の状況報告と共に、ケアについての意向や希望を話し合い、モニタリング結果についても介護計画には十分に反映されている。	家族の来訪時には状態報告を行い家族の意向も聞きケアに活かしている。ケア会議では利用者の状態確認とモニタリング結果を話し合い、介護計画の変更や継続を行い、家族にも良く説明し了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況変化や気づき等がみられた際は、ケース記録や業務日誌へ記入しており、日々の申し送り時にも報告し、情報を共有している。又、定期的な会議にて検討し介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて受診先を決めている。又、併設のデイサービスとの交流を図っている。家族旅行・結婚式等にも自由に外出されたり、外食・墓参り・帰宅・外泊等の対応にも支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアの受入れや近隣の保育園児との交流のなかで楽しんでいる。又、消防士立会いによる避難訓練を実際に経験していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を利用されており本人及び家族と相談しながら健康維持に努めている。重度化した場合、往診に来てくれる等、継続した医療を受けられる協力関係を築いている。	常勤の看護師が在籍して健康管理に努め、これまでのかかりつけ医を受診している。重度化した時にも往診が受けられ、また協力病院との連携も築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師や併設のデイサービスの看護師に相談し、適切な受診や看護に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの作成や入院中は定期的に訪問し経過状況について説明を受けており、お見舞いやその後の状態把握に努めている。又、退院に向けてのカンファレンスには施設長と管理者が出席し、その後の支援に生かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際は、本人や家族と早い段階で話し合いを行い、かかりつけ医・施設の看護師及び介護職員と共に連携して支援に取り組んでいる。本人の人権を尊重しながら終末期ケアに努めている。	ホームでの看取りの経験から、段階を踏んで本人・家族との話し合いを重ねている。職員は看取りや急変時の研修にも積極的に参加し、看護師、医師と協力しながら、最後まで本人の尊厳を大切にケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、急変時に備えて勉強会や研修に参加している。又、会議においても共有し実践力を身に付けるよう努めている。消防署での蘇生法や応急手当にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防士立会いの避難訓練を実施しており、夜間想定・地震想定にも取り組んでいる。又、地域の方の協力が得られるように働きかけ協力体制づくりを心がけている。	年1回は消防士立会いで避難訓練を行い、夜間想定・地震・火災・蘇生法(AED使用)の訓練も実施し入居者の安全確保を徹底している。地域との連携・協力体制にも取り組み、災害時にはホームの防火水槽を地域の方に提供することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、尊敬している事がわかるような言葉使いや態度を心がけている。プライバシー保護の研修を行い、プライバシーを損なうような対応には十分注意している。	接遇やプライバシー保護の研修に参加し、利用者一人ひとりに合わせた対応を心掛けている。利用者の思いを大切に、人生の先輩として対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活や誕生会、買い物等、本人の希望を伺い対応している。 本人の意見はゆっくり聞きながら、表現ができるように穏やかな姿勢で接している。また、表情等から読み取れるように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活に合った暮らし方を把握し、本人の希望や生活のペースに配慮しながら満足感が得られるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や年間行事の際は、本人の希望を取り入れ、その人らしいおしゃれができるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自が自分で出来るお手伝いをして頂けるように配慮している。好みのおやつを一緒に作ったり、季節にあったメニューを皆で考え、それに沿った食事を提供し嫌いな物は希望を取り入れ代替したりと食事が楽しみなものになるよう工夫したりしている。又、外食の機会も設けている。	食材は栄養士が毎日買い物に行き、地の食材を使用し、利用者の嗜好に合わせた季節の献立と一緒に考え提供している。利用者が出来る事にはどんどん参加して頂き、ぼた餅作り、ちらし寿司作り、日々のおやつ作りを職員と一緒に楽しみ、時には外食にも出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態を考慮しながら、かかりつけ医の指示に応じた栄養摂取や水分量、習慣に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、緑茶によるうがいや義歯を洗浄している。 又、入居者自身で歯磨きをしていただき、磨き残した際はさりげなく介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレへの誘導をしている。 本人の状態に応じて、パットやおむつを使い分ける等、自立に配慮した支援を行っている。	排泄時の誘導の声掛けはさりげなくを心掛け、利用者の排泄パターンを把握し支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の便秘の原因に配慮した食材の利用、水分補給を心がけている。又、主治医と相談しながら対応している。 毎日リハビリ体操を実施し、散歩も取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴ができるよう入浴剤を使用したり、一人ひとりの希望に沿った支援に努めている。 重度化した入居者には機会浴や清拭・手浴・足浴など実施している。	入浴は利用者の楽しみであり、ゆったりと入れるよう支援している。お風呂は井戸水利用で、肌に優しいお湯と喜ばれている。重度化しても併設のデイサービスでの機械浴を利用でき、状態に合わせた支援が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調により休息している。又、夜間に良眠できるよう温度や湿度の調整を行い、日中の活動にも工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医を受診する際、説明を受け状態を報告している。看護師より薬の目的や副作用について再確認を受け、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や嗜好に応じて、レクリエーションや外出、併設のデイサービスとの合同行事もあり、入居者の楽しみや気分転換になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族との食事や外出等、普段から自由に外出できるよう支援している。又、本人の希望に沿った外食・買い物・墓参り等、外出が出来よう工夫している。	利用者の状態に合わせた外出支援を、家族と協力して行っている。11月には成田山新勝寺へ家族と一緒に出掛け大変喜ばれた。四季折々の外出の企画の他、家族と墓参りや買い物にも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、少額の所持金を持っている方もいる。外出の際の買い物は、できるだけ本人に財布を渡して使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りが自由にできるように支援している。誕生日や敬老の日には、家族からのプレゼントも多く届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは広く、天井も高い為開放的であり、リビングの明るさも蛍光灯の明るさも調節ができる。又、季節を感じられる飾りつけを入居者と職員が一緒に行っている。	共有スペースは、天井も高く明るく広々としている。戸外にもプランターに花が飾られ、綺麗に整備され、厨房からはリビングが見渡せて、利用者の状態に合わせてお茶を進めたり状態の観察をしている。壁面の飾りつけも季節に応じて行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファや長椅子、マッサージチェアが置かれており、気の合う入居者同士で過ごせるくつろぎの場となっている。天気の良い日には、テラスでくつろぐ事も出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使い慣れた物品が置かれていて、居心地よく馴染みの生活が継続できるよう工夫している。自宅でお守りされていた仏壇を居室に置いている方もいる。	各居室には、自宅で使い慣れた物が置かれゆったりと安全に過ごしている。居室の入り口には各ユニットの花や果物のトールペイントの札の他、顔写真や目印を飾り混乱が無いよう工夫している。居室も掃除は行き届き清潔に暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に目印となる名前や好みの写真を貼り、できるだけ混乱を防ぐ工夫をしている。各室の洗面台は低位置に設置しており、利用しやすい環境となっている。		